

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社ふるさとコミュニティー		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	苫小牧市豊川町2丁目1-2 (電話) 0144-76-0351		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年11月21日

## 【情報提供票より】(平成19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤12人, 非常勤6人, 常勤換算15人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	3階建ての	～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無	暖房費	5,000円(11～3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名	
要介護1	4	要介護2	2			
要介護3	3	要介護4	6			
要介護5	3	要支援2	0			
年齢	平均	85歳	最低	71歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 苫仁会 神谷病院・豊巻歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの2つのユニットともに、ダイニング兼リビングに繋がる広々とした廊下を中心に共有空間と居室が使いやすく隣接している。廊下にはセミパブリックスペースを設け、光・音・臭いなどの五感刺激を配慮し、季節に合ったインテリア・小物・植木鉢を置き、生活感や季節感を採り入れ居心地よさが感じられる。利用者の多くは日常生活動作が低下し職員の介助量は増えているが、管理者の指導のもとで「職員は利用者の側に一緒に居る」(理念)を基本にチームケアの実践に努めている。利用者は職員の温かい見守りの中で安心感を膨らませ、豊かな表情を作りゆったりとした生活をしている。笑いがあがり安らぎに満ちたアットホームなグループホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題は3点である。ケア理念を含む運営理念は検討し総括部分を簡略したが関係文書への明記はなされていない。ホーム前面の駐車場は色表示し救急車の駐車帯と、歩行スペースを設けている。市担当者とは運営実態を共有した協働体制の取り組みが不十分であり、継続した取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者より説明・指導のもとで、評価表が配られリーダー・主任を加えて集約がなされた。職員は地域密着型サービスの関連項目には業務実績に乏しく記入に苦慮したが、ケアサービスの現状を見つめ「取り組みたい」、「考えたい」、「実施したい」など、質の改善・向上に繋がっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年6月に第一回の会議を開き、災害発生時の協力体制を始め諸課題について提示したが、具体的な結論を得ぬまま次回開催の目処が立っていない状況である。事業所としては、運営推進委員会の意義や役割など基本的なことから取り組んでいきたい考えである。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の苦情受け付けの窓口として、重要事項説明書には事業所と行政機関が示されている。家族は2週間に一度以上は来訪しており、どのようなことでも話し合える雰囲気作りに努めている。玄関ロビーには「苦情箱」を設置している。事業所としては外部者に表せる機会として運営推進会議を考えている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 経営母体の社長・専務は町内会の役員を勤めており、利用者は祭りや盆踊りなどの行事に参加している。また、大正琴、日本舞踊、民謡などの慰問ボランティアも受け入れているが、利用者が地域住民の一員として地域が必要とする活動や役割を担っているわけではなく、双方向的な連携ができていない状態ではない。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年の開設時に掲げた理念をもとに、日々の業務の中で具現化・実践化の取り組みを行なっている。	○	現理念に加えて、地域密着型サービスとしてのホームの役割を検討し、利用者の地域生活を支える理念、方針、目標を明確にしたサービスの提供が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の指導のもとで、全職員は「理念」のカードを携帯、理解し「心の安らぎと安心を与える」ケアサービスの提供が行なわれている。理念共有の体制はできている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営母体の社長・専務は町内会の役員を勤めており、利用者は祭りや盆踊りなどの行事に参加している。また、誕生会や敬老会には大正琴、日本舞踊、民謡などのボランティアを受け入れているが、双方向的な交流までには至っていない。	○	地域密着型サービスとしての理念の策定をもとに、事業所・利用者とともに暮らす地域住民の一員として、地域が必要とする活動や役割を担い、双方向的な関係作りが望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3回目の評価であり、職員は評価の意義や活用などについて定着しているが、管理者の指導のもとで全職員が前向きに取り組み、その過程を通して「取り組みたい」、「考えたい」、「実施したい」など、質の改善・向上に繋がっている。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に組織化し第一回の会議を開催した。災害発生時の協力体制を始め諸課題を提示したが、具体的な結論を得ぬまま、次回開催の目処が立っていない状態である。	○	運営推進会議の意義や役割を再度確認し、ホームの現状理解をもとに検討、懸案事項などの話し合いを通して、地域に開かれたサービスとして質の確保を目指し、一日も早く会議を軌道に乗せることを望みます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は更新手続きや諸会議の度に市担当者とは顔を合わせ信頼関係を醸成しているが、市担当者とともにサービスの質の向上に取り組む状態には至っていない。	○	市担当者とは、ホームの実態を共有し実状に即した協働体制を作り上げるために、積極的な情報提供をし関係作りを望みます。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には利用者の近状について説明し、病院の定期受診の様子は定期的に報告している。月末には利用料金の請求とともに預かり金の出納コピーと領収書を送付している。ホームの行事や職員の異動は年3回発行のユニット便りで知らせ、緊急用件は電話で行なっている。	○	利用者、家族がチームケアを推進者する職員と豊かな疎通、交流を図れるように、職員の第二人称の呼び方にならぬようネームプレート携帯や写真、氏名のユニット掲示などが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約書に示す利用者の権利として、重要事項説明書には苦情受付の窓口が事業所と行政機関が示されている。家族の苦情表現がしづらい心情を理解し、どのようなことでも気軽に話し合える雰囲気作りに努めている。玄関ロビーには「苦情箱」を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日々の介護実践を通して得た知識・技能をもとに修得した資格をもって、さらに条件の良い職場に異動して行く実態に憂慮している。利用者のハプニング・ダメージ緩和を目指し、全職員による円滑なチームケアに努めサービスの持続性を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の介護の質的向上を図るために研修を規定し、管理者、リーダー、ケアマネジャーなどの職能に応じた研修は充実しているが、中途採用者を始め実務経験の少ない職員の研修が不足している。	○	ケアサービスの質の向上は、全職員の資質の向上に委ねられ、その要は研修である。職員の段階に応じた研修の機会を計画的に確保するよう運営面での工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に所属し、管理者、職員ともに同業者との実践的な交流や学習の機会を得ている。同業者のネットワークづくりには至っていないが、管理者は意欲を示している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の相談から利用に至るまでには、主に家族と管理者が利用予定者の視点に立って面談・相談を繰り返し、不安除去の配慮に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な家事や会話の中から、利用者の喜怒哀楽を受容、共感し、心情を引き出せるように心掛けている。習わしや言い伝えの教えに感謝と支え合いの関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動や表情から思いや願いを読み取り、利用者本位に検討し把握に努め共有を図っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	詳細に記載しているアセスメントシートをもとにカンファレンス・モニタリングを行ない、職員の意見を集約し利用者主体のケアプランを作成している。家族の来訪時に意見・要望を聞きサービスの最適化に努めている。なお、利用者一人ひとりの日々の記録は具体的・詳細に行なわれているが、ケアプランに連動する形式は取っていない。	○	ケアサービスの質を高めるために、ケアプランに添って実施した介護記録が望まれる。日々の記録ケアプランの一体化を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは6ヶ月に期間設定しているが、毎月の業務会議でモニタリングを行ない、日常生活動作などの状況変化に応じた随時の見直しを行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎は家族同行を原則としているが、家庭への帰宅を含め通院送迎は自主サービスとして支援している。また、地域住民への介護相談や書類作成の支援にも応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、全利用者が協力病院の診察を受け、定期的な受診や看護師と相談しながら健康管理を行なっている。多くの利用者は掛り付け医の通院、診察を受けており、診察結果の情報交換は事業所が仲立し行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し看取りの必要が生じた場合の対応指針を文書で示し、事業所における医療体制について利用者、家族の理解を得ている。事業所では協力医、訪問介護、家族との連携を密にし、ホームでどこまで支えることができるかを、その都度話し合いし共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の指導により、対人サービスに携わる立場にある職員の心掛けとして、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないように言葉掛けや係わり方を始め、個人名が書かれた文書の取り扱いにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活や居心地よさを優先し、一人ひとりのペースを大切にしながらも、皆と一緒に過ごせる時間を作りにも配慮し、声掛け支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要介護4・5の利用者は食事の一連作業には参加できなくなっているが、それ以外の利用者は下ごしらえ、配下膳、洗い物など、好みや力を活かしながら職員と一緒にこなしている。職員は利用者と一緒に食卓に着き食事をし介助を行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や意思を尊重し、曜日、時間帯に関係なく自由に入浴ができるようにしている。入浴拒否者には、その日の気分を見計らい一緒に入ったり、足浴で気分作りを行ったり、銭湯に行ったりもしている。夜間入浴者もいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの希望、習慣や、有する力を踏まえ役割りや楽しみごとを作り出している。調理、買物、雑布縫いなど、職員の見守りの中で行ない感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩・買物、外食、ドライブなど天候や利用者の気分に応じて外出支援を行なっている。ホームと道路の間にある防風林の遊歩道を利用し、食事、音楽鑑賞、ボール遊びなどを通して五感刺激の取り組みも大切にしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者のケアの基本は、職員は利用者の側に居ることであり、鍵は絶対に掛けてはいけないとの指導のもとで、日中の玄関は施錠せず自由な暮らしを支援している。利用者が外に出たくなる場面や理由を把握し全職員が共有し対応を行なっている。		

苫小牧市 グループホーム ふるさと

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営規定にもとづき、年2回消防署員立会いのもとで消防署の通報方法や避難経路の確認など、災害訓練を行なっているが、昼夜の利用者を交えた実践的訓練や地域住民の協力を得た一体的な防災訓練が未実施である。	○	町内会や運営推進会議で協力を呼び掛け、消防署、警察、地域住民が一体となった実践的訓練の取り組みが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し、間食や入眠による過不足摂取量を全職員が共有し、状況に応じて声掛けにより調整を行なっている。献立はユニットにより「先立て」、「後立て」の違いがある。栄養バランスについて専門的な観点からチェックを受ける予定である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング兼リビングに繋がる広々とした廊下を中心に洗面台、トイレ、浴室などの共用空間と居室が使いやすく隣接している。廊下にはセミパブリックスペースを設け、季節に合ったインテリアや小物・植木鉢を置き、台所から調理の音や香り漂いが季節感や生活観を採り入れ、居心地よい共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染の家具を持ち込み、利用者の生活スタイルに合わせた居室作りを行なっている。また、趣味や思い出の作品・写真などを飾り、利用者にとって好みに応じた生活環境を作り、居心地よい居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。